

高知県および徳島県における自生チャの収集

根角厚司・武田善行

野菜・茶業試験場・久留米支場・茶樹育種研究室

Collection of Local Tea (*Camellia sinensis* L.) in Kochi and Tokushima Prefectures in Japan, 1995

Atsushi NESUMI and Yoshiyuki TAKEDA

Laboratory of Tea Breeding, Kurume Branch, National Research Institute of Vegetables, Ornamental Plants and Tea, 14041 Makurazaki, Kagoshima, Japan

Summary

There are various local teas (*C. sinensis*) around the mountainous regions of Kyushu, Shikoku and Honshu. These are valuable genetic resources as materials for taxonomic studies and breeding. However, they are decreasing by the development of mountainous regions and the change to the clonal cultivars. We had collected local teas, Yamacha (*C. sinensis*) in Kyushu district in 1989.

We collected the local teas in Kochi and Tokushima prefectures of Shikoku district in 3 places from 25 to 28, September 1995. The collecting places Niyodo village and Otoyo town of Kochi prefecture, are located near the border both of Ehime and Tokushima prefectures, and Ikeda town, Tokushima prefecture, which is located at the upper reaches of the Yoshino river (Fig. 1).

The number of collected shoots and fruits of tea were 94 and 256 respectively. The shoots were sampled as one shoot per plant and the fruits were collected 3 to 5 per plant. In total 503 seeds of tea were collected (Table 1).

Collected shoots were cut and nursed in the green house in September 29. Seeds were seeded into pots in the green house in December 11.

KEY WORDS : local tea, genetic resources, Shikoku, Kochi, Tokushima

1. 目的

日本では古くから茶の栽培が行われてきたことが多くの記録に残されているが、その茶が

どこから来たのか、そしてどのように広まったのかについては未だに謎の部分が多い。現在九州や四国あるいは本州の山間地で見られる‘ヤマチャ’といわれる自生茶はこれらの謎を解く鍵であると同時に、山間地の厳しい自然環境に耐え、生き延びてきた貴重な遺伝資源でもある。しかし、最近の山間部の開発とこれらの地域の茶園が急速に品種化されたことによって、古くからあるヤマチャ、あるいは在来種といわれる自生茶が急速に減少しつつある。

九州の熊本県及び宮崎県山間地における収集は1989年に根角らが行っている。今回の収集は四国の高知県高岡郡仁淀村、長岡郡大豊町及び徳島県三好郡池田町において実施したもので、その結果を報告する。

2. 経過

1995年9月25日から28日にかけて収集を行った。今回の収集は山には入らず、古くから茶が栽培されている、あるいは庭先に植えられていたという山間地の農家を中心に行った。高知県では仁淀村の西森氏の茶園（二カ所）及び大豊町の小笠原氏の茶園から種子及び穂を採集した。徳島県では徳島県農業試験場池田分場内にある畦畔茶園、渡辺氏宅の畦畔茶園、井野川氏宅の畦畔茶園及び川人氏宅の畦畔茶園から種子及び穂を採集した。収集に当たって情報の収集、現場への移動等は地元の農協、県の農業改良普及センター及び試験場の協力を得た。収集地点は Fig. 1 に示した。

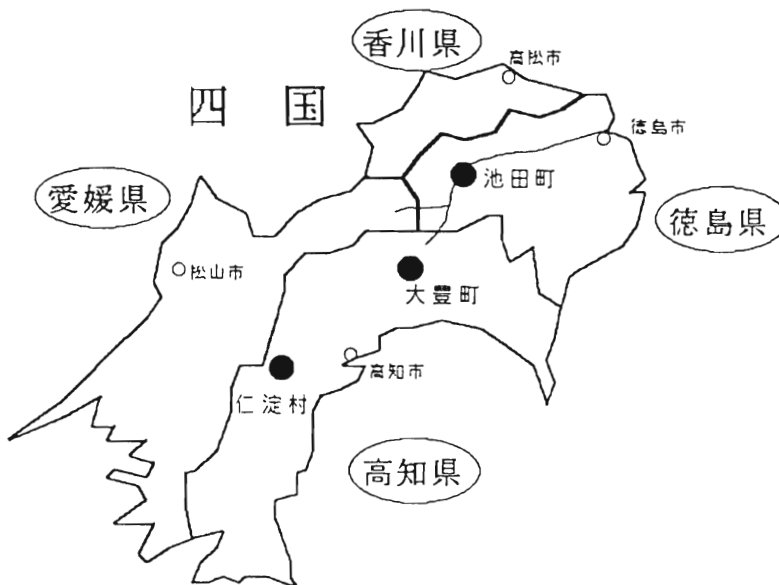


Fig. 1 A map of collection sites
収集地点

3. 収集方法

収集は、収集地点の近くに品種茶園がないかを確認してから行った。種子は1株につき3から5果、穂は1株から1本ずつ採取した。収集した穂木は9月29日にポットに二葉挿しをし、ガラス室内に置いた。種子は果皮を除去して冷蔵庫で保管したのち、12月11日にガラス室内のポットに播種した。また、乾燥を防ぎ発芽時期を早めるためにビニールトンネルを行った。

4. 収集結果

高知県及び徳島県における収集地点及び収集の内訳を Table 1 に示した。

仁淀村では2地点、大豊町では1地点、池田町では4地点の合計7地点で収集を行った。穂は94個体から収集し、種子は256果から503個を得た。種子は一定期間低温下に置く必要があるため、冷蔵庫内で保存した後播種を行った。播種数は501であった。

5. 収集材料の今後の処置

収集材料は1年間ガラス室内で育成した後圃場に定植し、一次特性調査を行う。また、定植3年目からは品質検定及び茶葉内成分の分析を行い、有望な個体は栄養系比較試験に供試する。また、特徴ある個体は保存系統として、保存園に移植する。

6. 所感

四国地方の茶栽培地域は大部分が山間部の急傾斜地である。しかし、最近では奥地まで品種化が進み、品種園と混在しない古い在来茶園は少なくなっていた。また、後継者不足から山間地の茶栽培地域そのものの存亡も危うい状態となっており、茶園の来歴等は今後ますますわかりにくくなると思われる。

大豊町では、収集と同時にこの地域に古くから伝わる碁石茶の伝承者を訪ねた。碁石茶は東南アジアで見られる後発酵茶とよく似た製法の茶として知られており、国内の他の地域でこういった製茶法が見られないことから、文化的にも重要な意味をもつと思われる。しかし、現在では碁石茶を作る農家は2戸しか残っておらず、製造技術の伝承が危ぶまれている。日本にはまだこのような地域独特の製茶法が多く残っているが、その多くの地域で技術の伝承が難しくなりつつある。遺伝資源としてのチャの収集とともに、こうした古くから地方に残る製茶法も記録に残していく必要性を強く感じた。

Table 1 Collections around mountainous regions of Kochi and Tokushima prefectures in Japan, 1995
収集材料記録表（高知県・徳島県，茶，1995）

収集番号	作物名	属種名	収集月日	収集地点
95-1	チャ	<i>Camellia sinensis</i>	9.25	高知県高岡郡仁淀村 高瀬1
95-2	〃	〃	9.27	高知県高岡郡仁淀村 高瀬2
95-3	〃	〃	9.28	高知県長岡郡大豊町 東梶ヶ内
95-4	〃	〃	9.28	徳島県三好郡池田町 シンヤマ
95-5	〃	〃	9.28	徳島県三好郡池田町 白地（ウマバ）
95-6	〃	〃	9.28	徳島県三好郡池田町 白地（東 〃）
95-7	〃	〃	9.28	徳島県三好郡池田町 西山

収集番号	採穂数	採果数	採種数	播種数	茶園所有者
95-1	7	56	97	97	西森氏
95-2	8	56	113	113	〃
95-3	18	53	100	100	小笠原氏
95-4	14	13	29	29	池田分場
95-5	4	11	25	23	渡辺氏
95-6	10	40	90	90	井野川氏
95-7	33	27	49	41	川人氏
合計	94	256	503	501	